

福井県における郷土史研究の動向 〔平成24年〕

福井県文書館は、開館以来資料叢書を定期的に刊行してきたが、その第9巻として福井藩士履歴の刊行を予定している。これは「剥札」と「士族」（いずれも松平文庫蔵）を家ごとにつなぎ、五十音順に組み替え編集し直すもので、ルーツ調べに役立つほか、明治維新後に近代日本を支えた人材創出を解明する上でも活用が期待される。また「幕末福井」を福井ブランドのひとつとして取り上げている福井県は、昨年引き続き、松平春嶽が記した代表的な随想記『眞雪草子』、『閑窓秉筆』、『雨窓閑話稿』、『前世雑話稿』の現代語訳を作成した。

次に平成24年に刊行された主な出版物を紹介し、県内郷土史研究の動向としたい。

一、目録・自治体史・地域史等

目録では、『越知神社 劔神社 瀧谷寺文書目録』（福井県教育委員会）が刊行された。白山信仰ゆかりの寺社の存在を明らかにしようと3年にわたり調査したものである。

市史では、越前市が『越前市史』資料編24「明治維新と閑義臣」を刊行した。義臣の手記などをひもとき、坂本龍馬と交流し、維新の立役者として活躍した郷土の偉人の生き様に迫る。

『写真アルバム 福井市の昭和』（いき出版）は、昭和の福井市内の市民の生活ぶりを主に個人が撮影した六百枚の写真で紹介したもの。小浜市郷土研究会は『写真で見ると今昔 市制六十周年記念』を刊行。同市が誕生した一九五一年以前、30周年にあたる一九八一年と現在の様子を同じページに並べて紹介した。また『武生市街重ね合わせ図』（武生立菜会）は江戸時代、明治時代の市街地図に、トレーシングペーパーの現代図を

重ねて時代の変遷がわかるすぐれもの。

地区史としては、福井市文殊地区が『温故叢談8』（村の歴史懇話会事務局）を発行。今までは地域の古文書などを調べてきたが、一昨年の大震災をきっかけに、初めて戦争や福井地震などの現代史を取り上げた。

ほかに、小学校高学年向けの地区史『私たちのふるさと麻生津』（木村健）、あわら市の地元有志が8年の歳月をかけてまとめた『宮谷区誌』、武生南地区自治振興会の『武生南地区街角案内』、8年ぶりの続編となる『日野山が見、日野川が知っている武生盆地の歴史2』（真柄甚松）、旧今立町花筐自治振興会の冊子『かつきよういーよ』、元大野市文化財保護審議委員が地区の歴史を紹介した『ふる郷大野市五箇地区のあゆみ』（小倉長良）、若狭町下吉田の区民が歴史や風土をまとめた『下吉田集落誌』、主要な論考をまとめた『若狭の歴史と民俗』（永江秀雄）が出版された。『耳川流域に生きる―歴史と暮らし・学び』（美浜文化叢書刊行会）は、終戦直後の旧耳村（現美浜町）の文化や産業などが詳細に記されている。

このほか福井県は、県内の文化や歴史、自然の豊かさを表す景観を選んだ「福井ふるさと百景」を紹介するガイドブック『福井県選定ふるさと百景』を作成した。福井県を特徴づける100のテーマで景観写真を収め、地図や住民らのコメントとともに掲載している。

二、史跡調査報告書 各時代史

福井県教育委員会は『上古遺跡』『大関東遺跡』『黒田寺跡・下山古墳群』『諏訪間興行寺遺跡2』『天神山古墳群』『朝倉館跡庭園 修理整備報告書』などを、越前市教育委員会は『瓜生助道B遺跡』を、美浜町教育委員会は『美浜町内遺跡発掘調査報告書3』を、それぞれ発行した。

美浜町若狭国吉城歴史資料館は『ブックレット 国吉城の章 第二巻』を刊行し、全5巻のシリーズを完成させた。第3巻は、栗屋越中守勝久

が織田信長に仕えた一五七〇年から国吉城が廢墟になる一六三四年までの歴史をまとめている。ほかに『百姓が走る 私考・万延元年の村替え騒動』(佐々木正祐)は、江戸末期、幕府直轄地の天領から鯖江藩への「村替え」を阻止しようと、村人たちが老中に「駕籠訴」した史実を、『わたしの“源平”歩き』(福岡昭子)は、県内や近県の平氏と源氏にまつわる史跡、逸話をまとめた。『異国物語(韃靼漂流記)』(竹内誠)は、竹内家に保管されている「異国物語」を翻刻したものの。

三、人物

福井県立こども歴史文化館は『ふくい先の先人たち 幕末』を刊行。松平春嶽ら、同館の常設展示などで紹介しきれない分や、歴史年表には出てこない女性ら計45人を紹介している。

福井市春山公民館は『春山のほこり橋本左内先生』を、福井・新田塚郷土歴史研究会は『越前の新田義貞考』を発行。坂井市丸岡町長崎の称念寺は、同寺と戦国武将・明智光秀とのかかわりをまとめた小冊子『明智光秀公と時衆・称念寺』を作成した。また、歴史研究家松原信之氏が、豊臣秀吉の支配下で越前東郷楨山城主を務めた武将、長谷川秀一の領内統治に関する新たな文書を解析し、「豊臣政権と越前の長谷川秀一(東郷侍従)について」と題して、『福井県地域史研究』第13号に掲載した。このほか『梅田雲浜先生二十五祭史料』『一夕話 梅田雲浜先生略伝』(梅田昌彦)がいずれも復刻された。

福井市出身で明治期に活躍した奇術師松 旭齋^{しやうさい}天一一の没後百年に合わせ、日本奇術協会副会長の藤山新太郎氏が伝記『天一一代 明治のスターマジシャン』(NIT出版)を出版した。

そのほか、琉球朝日放送報道制作局長の具志堅勝也氏が、旧今立町出身の国際政治学者若泉敬の姿を描いた『星条旗と日の丸の狭間で』(芙蓉

書房出版)を刊行した。

四、各分野団体史

学校関係としては、坂井市立丸岡中学校が『丸岡中学校創立50周年記念誌』を発行した。丸岡中学校は、前身の龍北、城東両中学校を統合して誕生しており、その歴史を辿る資料として創立時からの卒業アルバムなどを掲載、生徒たちが歌った両中学校の校歌を収録したCDもつけた。『勤労青年学校勝山女子高等学院 ―その偉い校史をたどる―』(山田雄造)は、県内唯一の勤労青年学校として、勝山市で一九六四年から9年開設されていた、勝山女子高等学院の歴史などを紹介する冊子。

そのほか、福井県高等学校体育連盟登山専門部が『五十年史』、池田町老人クラブ連合会が『池田町老人クラブ連合会50年史』(50周年記念事業実行委員会)、福井県内水面漁業協同組合連合会が『60年のあゆみ』、福井炭焼きの会が『創立20周年記念誌』、福井・麻生津婦人会が『歩み続けて六十年』、また服役を終えた人等の社会復帰を支援する福井福田会が『更生保護法人福井福田会百年史』をそれぞれ発行した。

五、教育・民俗・文化財

おおい町教育委員会は『薬師堂保存修理事業報告書』を発行。『勝山藩校成器堂』(増田公輔)は16年ぶりの改訂がなされた。勝山市は、毎年2月下旬に開かれる「勝山左義長まつり」の起源や特徴をまとめた解説書『左義長の起こりと奇祭・勝山左義長の解説』と『奇祭勝山左義長 絵行燈・作り物』(勝山左義長文化財推進協議会)を発行。『敦賀の力石』(先人が残した文化遺産) (柴田亮俊)は、敦賀市文化財保護審議会委員の柴田氏が、かつて力比べに使われた「力石」の市内での分布などをまとめたもの。調査で確認された99個が置かれていた場所や特徴、写真な

どが詳しく紹介されている。

六、工業・産業

工業関係では、福井県教育委員会は『福井県の近代和風建築』を発行した。県内の近代和風建築についての出版は初めてのことで、幕末から昭和三十年代の調査対象物件2111件のリストを載せ、そのうち特徴的な72件については、解説文や写真、図面をつけた。若狭町は『若狭鯖街道熊川宿の町並み保存Ⅲ』を刊行。『瀧谷寺伽藍調査報告書』（瀧谷寺）は、瀧谷寺境内の古建築の特質や歴史を調査した報告書。坂井町古文書の会は、『鳴鹿大堰をめぐる争い 続』を刊行。小浜市森の郷なかなた産物組合は、茅葺きを見直すきっかけにと『福井県の茅葺建築物』を刊行、県内各市町の文化財担当課や公民館などの協力を得て現地調査し、掲載の許可を得た43箇所59棟を掲載した。はたや記念館ゆめおーれ勝山は、『織物のまち、桐生と勝山』を発行した。

産業関係では、若狭路文化研究会は『滋賀県物産誌 大飯郡編』（『若狭路文化叢書 第9集』）を復刻した。「敦賀郡編」「三方郡編」につづく第3弾となる。また、かつて敦賀市東浦地区から滋賀県側へ塩を運ぶために使ったと見られる「塩の道」を、田中完一氏が4ルート確認し、「江越国境の『塩の道』再見」と題して、日本海地誌研究会の『会誌』第10号に掲載した。小浜市の市民グループ・JR小浜線鉄道遺産を守る会は『小浜線の思い出』を発行。沿線の人たちからの寄稿をまとめた。

七、文学

短歌「アララギ」派の、福井県など北陸をエリアとする結社・北陸アララギ会が発刊する短歌誌『柘』が通算1000号の大台に達した。アララギ系の地方歌誌として1000号を達成したのは全国で初めてであ

る。一方、散文学誌『青磁』代表の定道明氏が、坂井市丸岡町出身の中野重治と生家との関わりを「竹行李の中」と題した評論にまとめ、『青磁』29号で発表した。同市丸岡図書館が保管している中野家の関連文書を調査し、史実内容を確認したものである。

八、歴史研究施設の動向

最後に各施設の主な特別展などを紹介する。福井県立歴史博物館は「泰澄ゆかりの神仏」、「越前狛犬―越前青石（笏谷石）製の狛犬たち」、福井県立若狭歴史博物館は「若狭を撮る―井田家所蔵古写真のまなざし」、一乗谷朝倉氏遺跡史料館は「戦国一乗谷の庭園―伝統と革新の庭園デザイン」、福井市立郷土歴史博物館は「古代越前の文字」、「刀剣の研磨」、「大坂の陣と越前勢」、みくに龍翔館は「藩校・私塾・寺子屋と近代教育への歩み―坂井地域の教育史から」、若狭三方縄文博物館は「ユリ遺跡展―丸木舟とともに埋もれていたムラ」、オオカミと人―自然からの護符―をそれぞれ開催した。

以上、紙面の都合上により、個人史、抜刷など割愛した資料や、漏れた資料についてはお許しいただきたい。